令和８年度 学校だより

南中だより

校　　訓：自治・責任・敬愛
教育目標：元気な未来を創造する南中生

第３号（令和８年１０月２６日）

発行：伊丹市立南中学校長　粟生　桂治

令和８年度 全国学力・学習状況調査について

３年生対象に実施された、「全国学力・学習状況調査」（４月２３日（木）国語と数学、４月２０日（月）英語３技能と生徒質問紙、４月２８日（火）英語(話す)の本校の結果等をお知らせ致します。なおこの調査でわかるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。

１　学力に関する調査　国語・数学　各５０分　英語４５分　話すこと１０分～１５分
　　国語　数学　英語・・・・基礎学力（知識）を問う問題、応用力（活用）を問う問題
　　英語　（話すこと）・・・・聞くこと、話すことの調査

学力に関する調査結果について

【国語】

○全国及び兵庫県の平均正答率を上回る結果でした。また、「学習指導要領の内容・評価の観点・問題形式」の分類ごとに見ても、すべてにおいて全国及び兵庫県の平均を上回っていました。

○無解答率は、全国と本校を比較すると、ほとんどの問題で全国より無回答が少ない結果でした。

○学習指導要領の評価の内容別で、「情報の扱い方に関する事項」が全国平均との差が最も小さく、情報の整理の仕方を理解し、実際の話合いの中で使うことが必要と考えられます。

○出題の趣旨において、「表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる」問題の正答率が高いことから、効果的な語句や表現を選んで描写する力が身についていると考えられます。

【数学】

○全国及び兵庫県の平均正答率を上回る結果でした。また、「学習指導要領の領域・評価の観点・問題形式」の分類ごとに見ても、すべてにおいて全国及び兵庫県の平均を上回っていました。

○無解答率は、全国と本校を比較すると、すべての問題で全国より無回答が少ない結果でした。

○学習指導要領の評価の領域別と問題形式の２項目を合わせたとき「数と式」の選択形式が全国平均との差が最も小さく、数量及び数量の関係を捉え数学的な表現を用いて説明することを意識する取組が必要と考えられます。

○学習指導要領の領域において、「関数」「データの活用」に関する力が身についていると考えられます。

【英語】〇全国及び兵庫県の平均正答率を上回る結果でした。また、４技能「聞くこと」「読むこと・書くこと」「話すこと」の分類ごとに見ても、すべてにおいて全国及び兵庫県の平均を上回っていました。
〇無解答率は、全国と本校を比較すると、ほとんどの問題で全国より無回答が少ない結果でした。
〇「登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する問題」が全国平均との差が最も小さく、文を読みその概要を捉えることを意識した取組み必要と考えられます。
〇出題の趣旨において、「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」問題の正答率が高いことから、自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く力が身についていると考えられます。

生活に関する調査結果について

①「朝食を毎日食べていますか」という質問については、およそ９割の生徒が肯定的に回答していました。
②「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」という質問については、およそ８割の生徒が肯定的に回答していました。
③「毎日、同じくらいの時刻に起きている」という質問については、およそ８割の生徒が肯定的に回答していました。
④「自分にはよいところがあると思う」という質問については、およそ８割の生徒が肯定的に回答していました。
⑤「人の役に立つ人間になりたいと思う」という質問については、９割以上の生徒が肯定的に回答していました。
⑥「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問については、およそ８割の生徒が肯定的に回答していました。
⑦「学校の授業以外に普段（月曜日から金曜日）、１日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問については、１時間以上と回答した生徒は、６割以上でした。
⑧「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という質問については、およそ７割の生徒が肯定的に回答していました。
⑨「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりすることができている」という質問については、およそ９割の生徒が肯定的に回答していました。
⑩「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問については、６割以上の生徒が肯定的に回答していました。